

平成26年決算予算特別委員会 事業評価シート

②

分科会名	総務分科会
------	-------

NO.	予算科目	事業名
1	一般会計	委託バス運行調整事務

1 項目別評価

評価項目	評価基準(該当右欄に○)	会派別 評価数
(1)市民ニーズ	①きわめてニーズが高い(25点)	4
	②ニーズが高い(20点)	
	③どちらかといえばニーズが高い(15点)	2
	④どちらかといえばニーズが低い(10点)	
	⑤ニーズが低い(5点)	1
	⑥ニーズがない(0点)	
(2)市が行う必要性	①きわめて必要性が高い(25点)	7
	②必要性が高い(20点)	
	③どちらかといえば必要性が高い(15点)	1
	④どちらかといえば必要性が低い(10点)	
	⑤必要性が低い(5点)	1
	⑥必要性がない(0点)	
(3)費用に見合った効果	①きわめて効果的である(25点)	5
	②効果的である(20点)	
	③どちらかといえば効果的である(15点)	1
	④どちらかといえば効果的でない(10点)	
	⑤効果が少ない(5点)	1
	⑥効果がない(0点)	
(4)目標の達成状況	①きわめて成果がある(25点)	5
	②成果がある(20点)	
	③どちらかといえば成果がある(15点)	1
	④どちらかといえば成果がない(10点)	
	⑤成果が少ない(5点)	1
	⑥成果がない(0点)	

※会派別評価数は、会派会(事前)評価による数をそのまま転記したもの

2 分科会項目別評価

評価点	評価コメント(100字以内)
○ 20	公用・準公用という点から、また事業活性化のためにも人員輸送の必要性はある。
○ 20	市の事業の一部と認められるイベントでのバス利用の依頼があり、市が行う必要性が高い。各団体が全額負担するのは負担が大きい。
○ 20	適切な入札による契約であると考え、費用対効果はあると考える。
○ 20	各課の申請により運行調整をしている為それなりの目標は達成していると思われる。しかし、市全体での目標として達成状況を考えるべきである。

※評価点数はレーダーチャートへ反映されます

※評価点は人数を考慮して更に議論、集約したもの

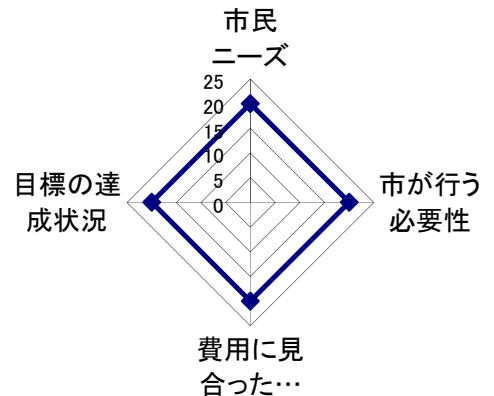
分科会評価

3 分科会評価

評価	分科会の評価理由(300字以内)
5 6 きわめて良好である 5 良好である 4 おおむね適正である 3 問題がある 2 かなり問題がある 1 不適性である	委託バス運行調整事務としては、大変高評価であると思うが、評価シート上では現れない運用面で改善すべきところがあるように思われる。
1 1 全会一致 2 大勢一致 ※少数意見も明記 3 要検討 ※面論併記	

分科会提案

分科会レーダーチャート



4 今後この事業に対する提案

提案	理由(政策・施策的見地、予算に関する実情等も含む)500字以内
4 5 拡充する 4 改善し継続する 3 現状のまま継続する 2 見直しの上縮小する 1 休止・廃止する	対象となる事業と準公務の違いがわかりにくい。また財政課が行う本事業のほかに、各課の予算でバスの手配を行っているケースがあり、一本化することが望まれる。市全体としての委託バス事業を考え、効果を評価する必要がある。運用面で、各課の申請内容の公平性・平等性が保たれているか、また、市民から見てどうなのか等担当課としてどこまで管理するか考慮する必要がある。
2 3 拡充する 2 継続する 1 縮小する	

分科会名	総務分科会
------	-------

NO.	予算科目	事業名
2	一般会計	普通財産維持管理事業

1 項目別評価

評価項目	評価基準(該当右欄に○)	会派別 評価数
(1)市民ニーズ	①きわめてニーズが高い(25点)	
	②ニーズが高い(20点)	1
	③どちらかといえばニーズが高い(15点)	3
	④どちらかといえばニーズが低い(10点)	1
	⑤ニーズが低い(5点)	2
	⑥ニーズがない(0点)	
(2)市が行う必要性	①きわめて必要性が高い(25点)	5
	②必要性が高い(20点)	2
	③どちらかといえば必要性が高い(15点)	
	④どちらかといえば必要性が低い(10点)	
	⑤必要性が低い(5点)	
	⑥必要性がない(0点)	
(3)費用に見合った効果	①きわめて効果的である(25点)	
	②効果的である(20点)	2
	③どちらかといえば効果的である(15点)	1
	④どちらかといえば効果的でない(10点)	3
	⑤効果が少ない(5点)	1
	⑥効果がない(0点)	
(4)目標の達成状況	①きわめて成果がある(25点)	
	②成果がある(20点)	3
	③どちらかといえば成果がある(15点)	
	④どちらかといえば成果がない(10点)	3
	⑤成果が少ない(5点)	1
	⑥成果がない(0点)	

※会派別評価数は、会派会(事前)評価による数そのまま転記したもの

2 分科会項目別評価

評価点	評価コメント(100字以内)
○ 15	維持管理をしないと草ボウボウになってしまうので、環境面、防犯面、防災面等から市民ニーズは高い。
○ 25	市有財産の活用や処分、また管理をするということで、当然、市が行うことである。
○ 15	委託先(草刈作業)を入札や見積もり合わせで決めているのでそれなりの効果が出ている。
○ 20	維持管理業務なので目標としているものはないが、除草という意味では成果がある。

※評価点は人数を考慮して更に議論、集約したもの

※評価点数はレーダーチャートへ反映されます

分科会評価

3 分科会評価

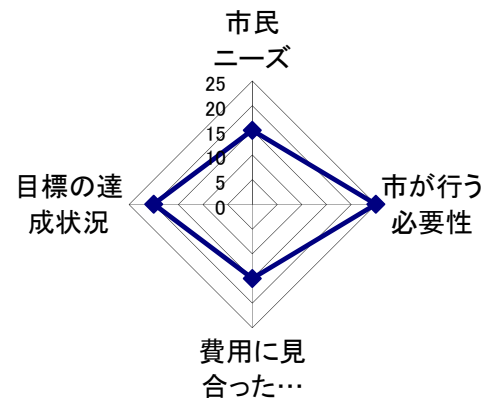
評価	分科会の評価理由(300字以内)
4 6 きわめて良好である 5 良好である 4 おおむね適正である 3 問題がある 2 かなり問題がある 1 不適性である	◎維持管理事業として 今回の分科会の評価は、維持管理業務としての評価をしたのでおおむね適正であるとなった。 ◎有効利用として ほとんどが草刈りに使われている費用である。売却すれば市負担の管理費用は無くなり、固定資産税も期待される。現状の無形の管理コストは大きいと考える。
3 1 全会一致 2 大勢一致 ※少数意見も明記 3 要検討 ※面論併記	

分科会提案

4 今後この事業に対する提案

提案	理由(政策・施策的見地、予算に関する実情等も含む)500字以内
4 5 拡充する 4 改善し継続する 3 現状のまま継続する 2 見直しの上縮小する 1 休止・廃止する	事業としては理解を示すが、「維持管理事業(草刈り)の縮小」をはかれるよう方針を出すべきである。つまり、市有財産の活用、処分ということで、いろいろな土地があるが、処分できる箇所と市で持ち続ける必要がある箇所とを整理し、今後、計画的に活用や処分(払下げ等も検討)を決めるべきである。売却の際には、適正な価格で適正な時期に行うべきと考える。また、市が行っている事務事業評価に関しても、未活用市有地面積の内訳には、守谷駅東口1.2haの市有地の面積は除外されているにも関わらず、事業費の内訳には、守谷駅東口1.2haの市有地の維持管理費が組み込まれてしまっている矛盾点が見受けられる。評価の曖昧さが見受けられるため、しっかりと評価内容の見直しも行うべきである。(市有地の内訳として、売却可能面積、市活用面積、その他等の面積と、それぞれにかかる除草費が把握できるようにすべき。)
2 3 拡充する 2 継続する 1 縮小する	

分科会レーダーチャート



分科会名	都市経済分科会
------	---------

NO.	予算科目	事業名
3	一般会計	生ごみ処理機等補助事業

1 項目別評価

評価項目	評価基準(該当右欄に○)	会派別 評価数
(1)市民ニーズ	①きわめてニーズが高い(25点)	1
	②ニーズが高い(20点)	
	③どちらかといえばニーズが高い(15点)	
	④どちらかといえばニーズが低い(10点)	
	⑤ニーズが低い(5点)	
	⑥ニーズがない(0点)	
(2)市が行う必要性	①きわめて必要性が高い(25点)	1
	②必要性が高い(20点)	
	③どちらかといえば必要性が高い(15点)	
	④どちらかといえば必要性が低い(10点)	
	⑤必要性が低い(5点)	
	⑥必要性がない(0点)	
(3)費用に見合った効果	①きわめて効果的である(25点)	1
	②効果的である(20点)	
	③どちらかといえば効果的である(15点)	
	④どちらかといえば効果的でない(10点)	
	⑤効果が少ない(5点)	
	⑥効果がない(0点)	
(4)目標の達成状況	①きわめて成果がある(25点)	2
	②成果がある(20点)	
	③どちらかといえば成果がある(15点)	
	④どちらかといえば成果がない(10点)	
	⑤成果が少ない(5点)	
	⑥成果がない(0点)	

※会派別評価数は、会派会(事前)評価による数そのまま転記したもの

2 分科会項目別評価

評価点	評価コメント(100字以内)
○ 10	家庭内処理ができることからニーズはある。10年前は100基以上だったが、ここ数年は20基前後になっている。PRが少ないため、市民ニーズが低いと考える。
○ 15	ごみの減量化のためには、補助金を出すことで生ごみ処理機を購入しようとする人の後押しになる。
○ 15	年間ごみ130t、金額で240万円の削減ができ、効果がある。
○ 10	導入する件数が少ないため、目標が達成しない。

※評価点数はレーダーチャートへ反映されます

※評価点は人数を考慮して更に議論、集約したもの

分科会評価

3 分科会評価

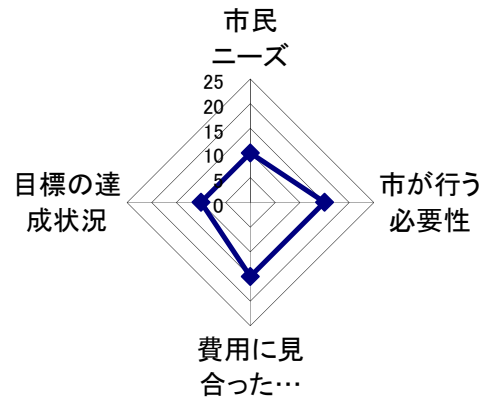
評価	分科会の評価理由(300字以内)
3	生ごみ処理機の使用により、ごみの減量や処理コストの削減ができているが、処理機を購入している家庭が少なく、補助金の申請も減少傾向である。PR不足も考えられる。
5 良好である	
4 おおむね適正である	
3 問題がある	
2 かなり問題がある	
1 不適性である	
1	※少数意見も明記 ※要検討 ※両論併記
1 全会一致	
2 大勢一致	

分科会提案

4 今後この事業に対する提案

提案	理由(政策・施策的見地、予算に関する実情等も含む)500字以内
5	生ごみの家庭内処理ができることは、大変望ましいことである。生ごみの減量化が目的であり、もっとPRに努め、市民への周知を図る。再度アンケート調査を実施し、修理や買い替え時の補助等も視野に入れ、ごみ減量の多様化したニーズに対応するために予算を増額して事業を拡充する。
4 改善し継続する	
3 現状のまま継続する	
2 見直しの上縮小する	
1 休止・廃止する	
3	
3 拡充する	
2 継続する	
1 縮小する	

分科会レーダーチャート



分科会名	都市経済分科会
------	---------

NO.	予算科目	事業名
4	一般会計	コミュニティコンポスト事業

1 項目別評価

評価項目	評価基準(該当右欄に○)	会派別 評価数
(1)市民ニーズ	①きわめてニーズが高い(25点)	
	②ニーズが高い(20点)	
	③どちらかといえばニーズが高い(15点)	
	④どちらかといえばニーズが低い(10点)	2
	⑤ニーズが低い(5点)	4
	⑥ニーズがない(0点)	1
(2)市が行う必要性	①きわめて必要性が高い(25点)	
	②必要性が高い(20点)	
	③どちらかといえば必要性が高い(15点)	
	④どちらかといえば必要性が低い(10点)	2
	⑤必要性が低い(5点)	5
	⑥必要性がない(0点)	
(3)費用に見合った効果	①きわめて効果的である(25点)	
	②効果的である(20点)	
	③どちらかといえば効果的である(15点)	
	④どちらかといえば効果的でない(10点)	3
	⑤効果が少ない(5点)	4
	⑥効果がない(0点)	
(4)目標の達成状況	①きわめて成果がある(25点)	
	②成果がある(20点)	
	③どちらかといえば成果がある(15点)	
	④どちらかといえば成果がない(10点)	3
	⑤成果が少ない(5点)	4
	⑥成果がない(0点)	

※会派別評価数は、会派会(事前)評価による数そのまま転記したもの

2 分科会項目別評価

評価点	評価コメント(100字以内)
5 ○	使用しているのは、県営住宅102世帯のうち48世帯である。また、市民全体の事業でないためニーズは低いと思われる。
5 ○	設置は県、事業は市であり、コンポストがあるから事業を継続している。コストをかけて事業を継続する必要はない。
5 ○	利用者が少ないため、費用に見合った効果はない。
5 ○	生ごみの投入量がわからないので、削減効果がわからず、成果が見えない。

※評価点は人数を考慮して更に議論、集約したもの

※評価点数はレーダーチャートへ反映されます

分科会評価

3 分科会評価

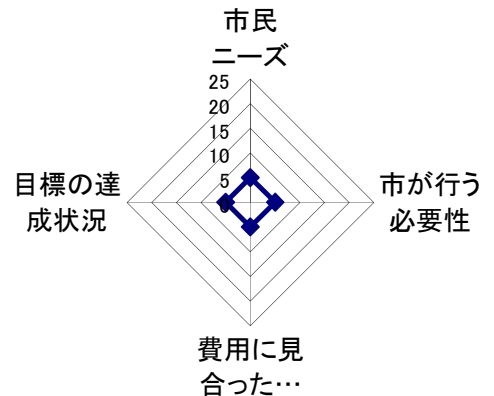
評価	分科会の評価理由(300字以内)
2 6 きわめて良好である 5 良好である 4 おおむね適正である 3 問題がある 2 かなり問題がある 1 不適性である	コミュニティコンポストの利用者が限定的で、利用状況も積極的とは考えにくい。利用者が少なく、コストをかけて事業を継続する意味がない。
1 1 全会一致 2 大勢一致 ※少数意見も明記 3 要検討 ※両論併記	

分科会提案

4 今後この事業に対する提案

提案	理由(政策・施策的見地、予算に関する実情等も含む)500字以内
1 5 拡充する 4 改善し継続する 3 現状のまま継続する 2 見直しの上縮小する 1 休止・廃止する	現地視察調査時には、堆肥はあったものの状況的にはほとんど使用されていない様子であった。コストをかけて事業を継続するより、常総広域堆肥化事業に移行し、事業を廃止する。
予算	
1 3 拡充する 2 継続する 1 縮小する	

分科会レーダーチャート



分科会名	都市経済分科会
------	---------

NO.	予算科目	事業名
5	一般会計	区長業務説明会開催事業

1 項目別評価

評価項目	評価基準(該当右欄に○)	会派別 評価数
(1)市民ニーズ	①きわめてニーズが高い(25点)	2
	②ニーズが高い(20点)	5
	③どちらかといえばニーズが高い(15点)	
	④どちらかといえばニーズが低い(10点)	
	⑤ニーズが低い(5点)	
	⑥ニーズがない(0点)	
(2)市が行う必要性	①きわめて必要性が高い(25点)	2
	②必要性が高い(20点)	4
	③どちらかといえば必要性が高い(15点)	1
	④どちらかといえば必要性が低い(10点)	
	⑤必要性が低い(5点)	
	⑥必要性がない(0点)	
(3)費用に見合った効果	①きわめて効果的である(25点)	2
	②効果的である(20点)	5
	③どちらかといえば効果的である(15点)	
	④どちらかといえば効果的でない(10点)	
	⑤効果が少ない(5点)	
	⑥効果がない(0点)	
(4)目標の達成状況	①きわめて成果がある(25点)	1
	②成果がある(20点)	4
	③どちらかといえば成果がある(15点)	2
	④どちらかといえば成果がない(10点)	
	⑤成果が少ない(5点)	
	⑥成果がない(0点)	

※会派別評価数は、会派会(事前)評価による数そのまま転記したもの

2 分科会項目別評価

評価点	評価コメント(100字以内)
○ 20	毎年度区長の約8割が交代する中、154自治会の区長に対して、業務を理解してもらうための説明会を年度当初に開催することは必要不可欠である。
○ 20	各自治会、町内会との業務委託契約により、市から様々な委託業務について説明し、区長からの質問等に応じることの必要性は高い。
○ 20	この事業は最低の予算であるが、効果は大きい。(関連予算で1世帯当たり1,500円の委託料等がある。)
○ 20	説明会の目標は達成している。

※評価点は人数を考慮して更に議論、集約したもの

※評価点数はレーダーチャートへ反映されます

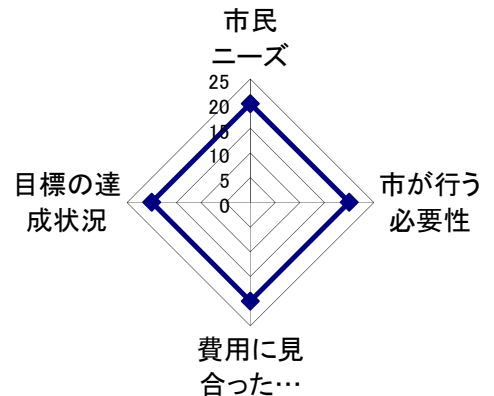
分科会評価

3 分科会評価

評価	分科会の評価理由(300字以内)
5 6 きわめて良好である 5 良好である 4 おおむね適正である 3 問題がある 2 かなり問題がある 1 不適性である	区長業務について行政からの説明は必要であり、今後も地域活動に反映できるような説明会を継続すべきである。これからは高齢者の増加や子どもたちの安全などに対する見守りや地域福祉の観点から、自治会の必要性が非常に高くなる。
1 1 全会一致 2 大勢一致 ※少数意見も明記 3 要検討 ※両論併記	

分科会提案

分科会レーダーチャート



4 今後この事業に対する提案

提案	理由(政策・施策的見地、予算に関する実情等も含む)500字以内
4 5 拡充する 4 改善し継続する 3 現状のまま継続する 2 見直しの上縮小する 1 休止・廃止する	この事業の先に見える、自治会加入の問題、輪番制の区長のあり方等、今後考えなければならないことが多々ある。例えば、高齢者だけの世帯は区長の役は重荷であるから自治会を辞める。とか、アパートの方の加入率が低いとか。広報を配りながらの地域見守りが必要だとか。地域福祉を含めた総合的な観点からも、非常に重要な課題を含んでおり、拡充する必要がある。
3 3 拡充する 2 継続する 1 縮小する	

分科会名	文教福祉分科会
------	---------

NO.	予算科目	事業名
6	一般会計	福祉タクシー助成事業

1 項目別評価

評価項目	評価基準(該当右欄に○)	会派別 評価数
(1)市民ニーズ	①きわめてニーズが高い(25点)	1
	②ニーズが高い(20点)	2
	③どちらかといえばニーズが高い(15点)	3
	④どちらかといえばニーズが低い(10点)	
	⑤ニーズが低い(5点)	1
	⑥ニーズがない(0点)	
(2)市が行う必要性	①きわめて必要性が高い(25点)	2
	②必要性が高い(20点)	5
	③どちらかといえば必要性が高い(15点)	
	④どちらかといえば必要性が低い(10点)	
	⑤必要性が低い(5点)	
	⑥必要性がない(0点)	
(3)費用に見合った効果	①きわめて効果的である(25点)	
	②効果的である(20点)	
	③どちらかといえば効果的である(15点)	4
	④どちらかといえば効果的でない(10点)	2
	⑤効果が少ない(5点)	1
	⑥効果がない(0点)	
(4)目標の達成状況	①きわめて成果がある(25点)	
	②成果がある(20点)	1
	③どちらかといえば成果がある(15点)	3
	④どちらかといえば成果がない(10点)	
	⑤成果が少ない(5点)	3
	⑥成果がない(0点)	

※会派別評価数は、会派会(事前)評価による数をそのまま転記したもの

2 分科会項目別評価

評価点	評価コメント(100字以内)
○ 20	歩行困難な障がい者や低所得の高齢者など、いわゆる交通弱者からのニーズは高い。
○ 20	補助事業であり行政が行うべきである。
○ 15	交付枚数に対し利用率約50%ということで、利用された方に関しては一定の効果があったと感じられる。
○ 15	利用率約50%ということで目標達成されているか否かは微妙である。利用されなかった原因を明確にすることにより、達成度が決まると想われる。

※評価点は人数を考慮して更に議論、集約したもの

※評価点数はレーダーチャートへ反映されます

分科会評価

3 分科会評価

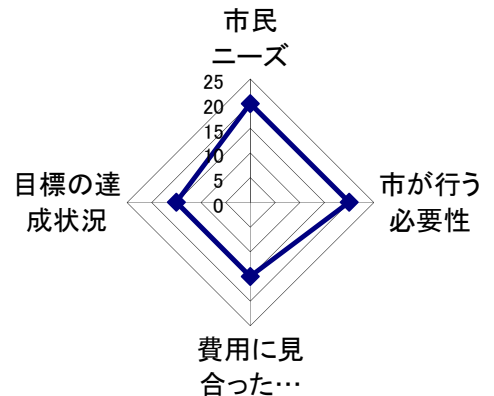
評価	分科会の評価理由(300字以内)
4 6 きわめて良好である 5 良好である 4 おおむね適正である 3 問題がある 2 かなり問題がある 1 不適性である	市民ニーズ、市が行う必要性はいずれも高い評価だったが、費用に見合った効果、目標の達成状況に関しては、低い評価であった。初乗り料金を支援されても自己負担が高額の場合、低所得者はタクシーに乗りづらい。5,640枚交付されているのに対し、2,822枚しか利用されておらず、支援が必要とされる人にとって、利用しやすいかどうかを調査する必要があると考えます。
3 1 全会一致 2 大勢一致 ※少数意見も明記 3 要検討 ※両論併記	

分科会提案

4 今後この事業に対する提案

提案	理由(政策・施策的見地、予算に関する実情等も含む)500字以内
4 5 拡充する 4 改善し継続する 3 現状のまま継続する 2 見直しの上縮小する 1 休止・廃止する	事業自体の必要性は高いが、利用率の低さに問題を感じる。利用者からのアンケートを取るなどして利用率を上げる必要がある。またチケットのナンバリングから使用の実態を把握する。(不要となったチケットの回収、チケットの署名欄、転売転用禁止など) 今後、福祉タクシー事業やデマンドタクシー、モコバスなどを総合的に検証し、交通弱者に対する事業・施策検討を行うべきである。
2 3 拡充する 2 継続する 1 縮小する	

分科会レーダーチャート



分科会名	文教福祉分科会
------	---------

NO.	予算科目	事業名
7	一般会計	民間保育所障がい児保育補助

1 項目別評価

評価項目	評価基準(該当右欄に○)	会派別評価数
(1)市民ニーズ	①きわめてニーズが高い(25点)	2
	②ニーズが高い(20点)	4
	③どちらかといえばニーズが高い(15点)	1
	④どちらかといえばニーズが低い(10点)	
	⑤ニーズが低い(5点)	
	⑥ニーズがない(0点)	
(2)市が行う必要性	①きわめて必要性が高い(25点)	2
	②必要性が高い(20点)	5
	③どちらかといえば必要性が高い(15点)	
	④どちらかといえば必要性が低い(10点)	
	⑤必要性が低い(5点)	
	⑥必要性がない(0点)	
(3)費用に見合った効果	①きわめて効果的である(25点)	
	②効果的である(20点)	1
	③どちらかといえば効果的である(15点)	2
	④どちらかといえば効果的でない(10点)	1
	⑤効果が少ない(5点)	3
	⑥効果がない(0点)	
(4)目標の達成状況	①きわめて成果がある(25点)	
	②成果がある(20点)	1
	③どちらかといえば成果がある(15点)	1
	④どちらかといえば成果がない(10点)	2
	⑤成果が少ない(5点)	3
	⑥成果がない(0点)	

※会派別評価数は、会派会(事前)評価による数をそのまま転記したもの

2 分科会項目別評価

評価点	評価コメント(100字以内)
○ 20	障がい児が希望する保育所で、健常な乳幼児との集団保育を行える体制、環境づくりは必要である。
○ 20	民間保育園が障がい児の受け入れ環境を整えるためには、行政の支援が必要である。
○ 10	費用に関しては県に習って単価設定しており、本年度は4名の児童に対して補助を行っている。しかし、現在の補助額では民間保育園が受け入れるのは難しい。
○ 10	継続的な受け入れが見られるが、その受け入れ状況を見ると目標が達成されているとは言い難い。

※評価点は人数を考慮して更に議論、集約したもの

※評価点数はレーダーチャートへ反映されます

分科会評価

3 分科会評価

評価	分科会の評価理由(300字以内)
4 6 きわめて良好である 5 良好である 4 おおむね適正である 3 問題がある 2 かなり問題がある 1 不適性である	市民ニーズ、市が行う必要性はいずれも高い評価だったが、費用に見合った効果、目標の達成状況に関しては、低い評価であった。継続的な障がい児の受け入れは行っているが、その人数は少なく、その理由も明々白白である。金銭(補助)的問題も然ることながら、保育士の人員の確保や職員のスキル向上の手立ても必要。
3 1 全会一致 2 大勢一致 ※少数意見も明記 3 要検討 ※面論併記	

分科会提案

4 今後この事業に対する提案

提案	理由(政策・施策的見地、予算に関する実情等も含む)500字以内
4 5 拡充する 4 改善し継続する 3 現状のまま継続する 2 見直しの上縮小する 1 休止・廃止する	今後微増するであろう障がい児(発達障害)の受け皿を確保する必要があると考えます。近年4~6名の障がい児を受け入れている現状だが、どれも入園後に障がい確認され、そのまま継続して保育しているものであり、入園前に障がい確認されている場合でも容易に受け入れできる環境をつくる必要がある。市が行っている障がい児1人あたりの補助額の増額を保育園と協議して検討すべきである。また、保育士のスキルアップのための助成や公立保育所との人材交流の促進なども積極的に行なわなければならない。
3 3 拡充する 2 継続する 1 縮小する	

分科会レーダーチャート

